



古今一首抄

~ 4  
1525





三十六人撰

此の六納言公任卿の撰... 影のともび... 拾遺和歌集の序... 赤人... 忠見... 歌仙... 七卷云大伴宿池主三月五日...

柿本人麻呂左



古今集羈縻... 人麻呂... 舟は... 万葉... 思念... 舟は...

百人一首抄

此百首ハ京極中納言定家卿の筆... 建仁元年 承元元年 承元二年 承元三年... 建仁元年 三月廿六日... 建仁二年 四月新古今... 承元元年 十一月三十日... 承元二年 四月...

天智天皇



後撰集秋下... 万葉十詠... 秋田新借... 鏡... 喪歸... 我梅能... 天智天皇... 近江大津宮... 陸山科鏡山...

紀貫之右



拾遺集春 皇子院 神皇の御孫  
 皇子院ハ拾芥抄云七條坊門北西洞院西  
 二丁云々  
 宇多天皇 御諡 寛平九年御讓位  
 皇子院ハ拾芥抄云七條坊門北西洞院西  
 諸ありて寛平法皇云々  
 影の...  
 古今春下 皇子院法皇  
 降つてまて...

凡河内躬恒左



後撰集春上 延喜の御孫  
 凡河内躬恒左  
 延喜の御孫ハ...  
 十二首の...  
 御厨子取ハ天子の御孫...  
 秋の...  
 陽の...  
 山を...  
 春の...  
 秋の...  
 春の...  
 秋の...  
 春の...  
 秋の...

持統天皇



万葉集一 藤原宮 御宇天皇 御代天皇 御製歌  
 春過而其未良之白妙能衣乾有大之香来山を先よ  
 持統天皇 大御父ハ天智天皇 大御母ハ遠知姫 天武天皇  
 御謚ハ高天原廣野姫天皇 大和国藤原宮 陵大和国高  
 市郡大内

柿本人麻呂



万葉集十一 寄物陳思  
 念友念も兼津 足檜木之山鳥尾之永此夜辛  
 足日木之山鳥尾之四垂尾乃長永夜辛一鴨宿かあり  
 古今著聞云元永六年六月十六日終理大夫躬事知長六條洞院  
 柿本朝臣ハ古事記ニ天押帶日子命後十六氏ニ別是也才三ツ  
 姓氏録云敏達天皇御代侯家門者柿本謂柿木氏又祖不知人



山部赤人右

志ほらうらむ  
うらむらむ  
うらむらむ  
うらむらむ



万葉集六神龜元年十月五日幸紀伊  
國時山部宿禰赤人作哥並短歌

續日本紀神龜元年冬十月丁亥朔辛卯天皇幸武吉紀伊國矣已行至紀伊國那賀郡玉垣宮甲午至海部郡玉津嶋勾須宮留十有餘日

はひ幸の後駕なる  
勢をくわのむねぬ  
以干浮少潮のさかき

中納言家持

なほくたのうらむらむ  
うらむらむ



うらむらむ  
うらむらむ  
うらむらむ

古今集卷之五

鳥鶯橋大内  
大内のうらむらむらむ  
唐詩と奉和初春幸大平公主南御製  
鳳凰樓下天文伏鳥鶯橋頭歌御定  
天皇を侍りて  
御定はるらむらむ

在原業平朝臣 左

なほらうらむらむ  
うらむらむ  
うらむらむ



古今集卷之上 海陸河内国文

續万葉論云此のうらむらむは  
土佐日記を捨てて  
土佐日記を捨てて  
土佐日記を捨てて

安倍仲麻呂

うらむらむ  
うらむらむ



うらむらむ  
うらむらむ  
うらむらむ

古今集卷之五

土佐日記云此のうらむらむは  
新撰姓氏録卷之五  
元明天皇の御名をまげし

僧正遍昭 右

うらやま  
うらやま  
うらやま  
うらやま  
わがうらやま  
あがひや  
ありなむ



後撰集雜三

家集小つらま... 深草... 仁明... 家集小つらま... 深草... 仁明... 家集小つらま... 深草... 仁明... 家集小つらま... 深草... 仁明...

素性法師 左

うらやま  
うらやま  
うらやま  
うらやま  
わがうらやま  
あがひや  
ありなむ

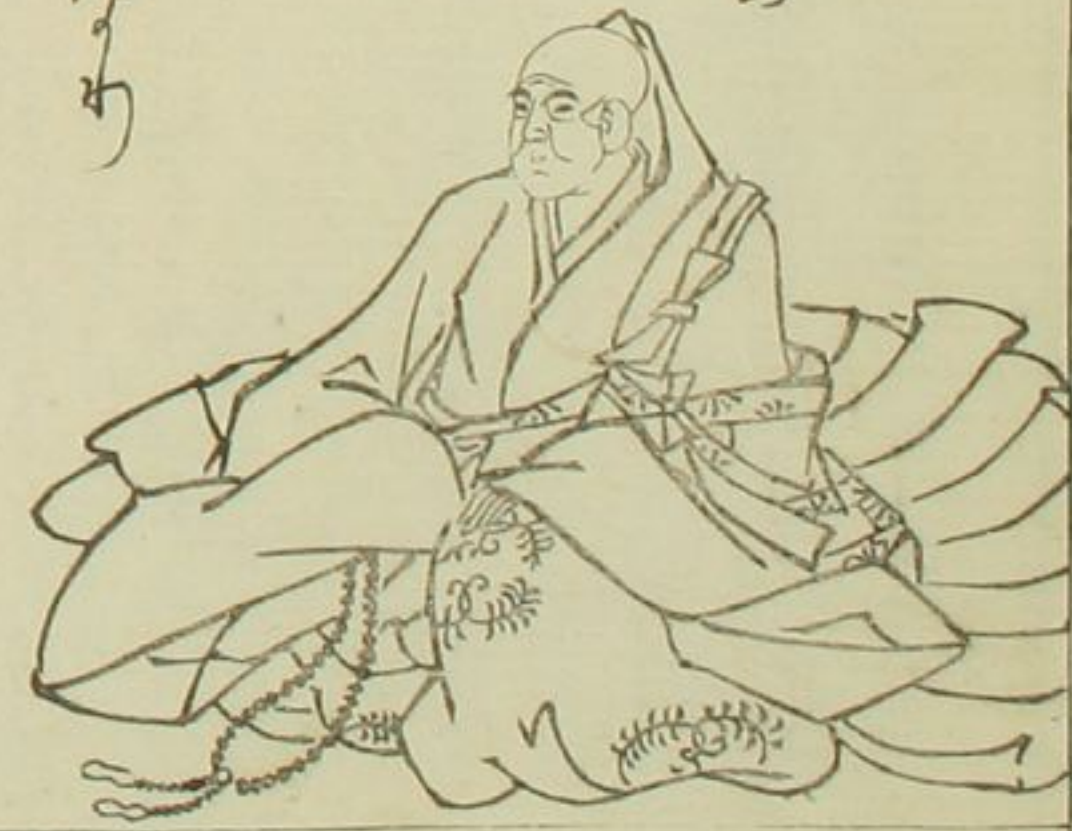


古今集春上

古今集春上... 夜の... 古今集春上... 夜の... 古今集春上... 夜の...

喜撰法師

うらやま  
うらやま  
うらやま  
うらやま  
わがうらやま  
あがひや  
ありなむ



古今集

古今集... 世の人の... 古今集... 世の人の... 古今集... 世の人の...

小野小町

うらやま  
うらやま  
うらやま  
うらやま  
わがうらやま  
あがひや  
ありなむ



古今集春下

古今集春下... 後撰集... 小野朝臣... 野村... 拾芥抄... 古今集春下... 後撰集... 小野朝臣... 野村... 拾芥抄...

紀友則 右

ゆきさき水ぞ  
 さ保の  
 こころは  
 こころは  
 こころは  
 こころは



拾遺集冬

拾遺集冬  
 しののへに  
 雪のふりし  
 ころも  
 ころも  
 ころも  
 ころも

蝉丸

うげやこれ  
 ゆくも  
 こころは  
 こころは  
 こころは



後撰集雜一

後撰集雜一  
 あふはの  
 あふはの  
 あふはの  
 あふはの

猿九大夫 左

あつこころ  
 こころは  
 こころは  
 こころは



泰議管主

あふはの  
 あふはの  
 あふはの  
 あふはの



古今集春上  
 續万葉論云秋のころは  
 續万葉論云秋のころは  
 續万葉論云秋のころは  
 續万葉論云秋のころは

古今集籍様  
 文徳實錄云泰議後四位下  
 文徳實錄云泰議後四位下  
 文徳實錄云泰議後四位下  
 文徳實錄云泰議後四位下



小野小町右

夕の光をみれば  
うらみなき  
秋の夜を  
いとよみ



古今集雜下 文屋康秀の  
夕の光をみれば  
うらみなき  
秋の夜を  
いとよみ  
和名鉄云説文云萍  
宇木無根浮水上者也  
伊勢集一  
秋のこころは夜のゆけゆけ  
まことなるものゆけゆけ  
高砂の砂のこころは夜のゆけゆけ  
琴の音をね風  
詠集小第一第二弦素々秋風拂  
松疎韻  
御修寺祖贈太政大臣良門孫右中將  
刺基子号堤中納言  
歌仙傳云延長五年正月十二日  
叙後三位任中納言承平三年二  
月十八日薨

中納言並繪 左



後撰集夏 夏のおふり  
秋のこころは夜のゆけゆけ  
まことなるものゆけゆけ  
高砂の砂のこころは夜のゆけゆけ  
琴の音をね風  
詠集小第一第二弦素々秋風拂  
松疎韻  
御修寺祖贈太政大臣良門孫右中將  
刺基子号堤中納言  
歌仙傳云延長五年正月十二日  
叙後三位任中納言承平三年二  
月十八日薨

僧正遍昭

あふり  
うらみなき  
秋の夜を  
いとよみ



古今集雜上 百餘の  
五郎の毎年十一月廿四日  
常寧殿より主上御座あり  
あふり  
うらみなき  
秋の夜を  
いとよみ  
三代實録云仁和三三年九月為僧正  
二月廿日入滅

陽成院



後撰集意三  
日本記畧云延暦三年四月一日入道三品綏子内親王  
光孝天皇第二皇女也  
光孝の御在在の者あり六條北洞院  
王あつたす  
秋のこころは夜のゆけゆけ  
まことなるものゆけゆけ  
高砂の砂のこころは夜のゆけゆけ  
琴の音をね風  
詠集小第一第二弦素々秋風拂  
松疎韻  
御修寺祖贈太政大臣良門孫右中將  
刺基子号堤中納言  
歌仙傳云延長五年正月十二日  
叙後三位任中納言承平三年二  
月十八日薨

中納言朝忠 右

あきらめ  
あきらめ  
あきらめ  
あきらめ  
あきらめ  
あきらめ  
あきらめ  
あきらめ  
あきらめ  
あきらめ



拾遺集意一 天曆の御時初巻  
三條右大臣定方公二男母中納言山内  
卿女号土御門中納言  
哥仙傳云應和三年九月任中  
納言同十月二十八日昇殿康保二年  
十一月依病辞督并別當三年十  
二月二日薨年五十六

推中納言教忠 左

ほそのうそ  
あきらめ  
あきらめ  
あきらめ  
あきらめ  
あきらめ  
あきらめ  
あきらめ  
あきらめ  
あきらめ



後撰集意五 西四條前齋宮  
雅子内親王  
皇女

● 雅子のころの雅子内親王をこころに  
さすはてはやのしるしをこころにさす  
あきらめをこころにさす  
あきらめをこころにさす  
あきらめをこころにさす  
あきらめをこころにさす  
あきらめをこころにさす  
あきらめをこころにさす  
あきらめをこころにさす  
あきらめをこころにさす  
あきらめをこころにさす

河原左大臣

あきらめ  
あきらめ  
あきらめ  
あきらめ  
あきらめ  
あきらめ  
あきらめ  
あきらめ  
あきらめ  
あきらめ



古今集意四  
はつふの末を古今集のうしろに  
伊勢物語をうしろにうしろに  
秋のうしろにうしろにうしろに  
うしろにうしろにうしろに  
うしろにうしろにうしろに  
うしろにうしろにうしろに  
うしろにうしろにうしろに  
うしろにうしろにうしろに  
うしろにうしろにうしろに  
うしろにうしろにうしろに

光孝天皇

あきらめ  
あきらめ  
あきらめ  
あきらめ  
あきらめ  
あきらめ  
あきらめ  
あきらめ  
あきらめ  
あきらめ



● 古今集春上 仁和の帝  
● 伊勢物語をうしろにうしろに  
● 秋のうしろにうしろにうしろに  
● うしろにうしろにうしろに  
● うしろにうしろにうしろに  
● うしろにうしろにうしろに  
● うしろにうしろにうしろに  
● うしろにうしろにうしろに  
● うしろにうしろにうしろに  
● うしろにうしろにうしろに

藤原高光 右



拾遺集雜上 法師法師なるんともい  
ふらんころ月をさけり  
家集云村上南諱成明のころ  
秋の心もさるものすもの何ん  
月の多愛もさるものすもの何ん  
法師なるんともいふらんころ月をさけり  
ものゆゑ法師なるんともいふらんころ月をさけり  
父九條右大臣師輔公八男多武峯女將  
歌仙傳云應和元年十二月四日到横川  
入道如龜

源公忠朝臣 左



拾遺集夏 山のふもとに  
宋集云かまのころあはれ風もよま  
童女のすくすくしてさかかきさけも  
ゆいけをめてさかきさかきさかき  
秋のころら子あをさかきさかき  
また山路のゆいけをさかきさかき  
して今をさかきさかきさかき  
目をくすくすさかき  
光孝天皇孫正四位下大藏卿国紀子  
滋井兼  
歌仙傳云天慶四年三月任近江守  
四月十二日昇殿六年二月兼右中弁八  
年依病辞弁九年卒年五十九

中納言行平



古今集離別 年一ら  
秋のころさる周情の園カニにふはしてさかきさかき  
てさかきさかきさかきさかきさかき  
秋のころさる周情の園にふはしてさかきさかき  
三代實録齊衡二年正月後四位下在原朝臣行  
平為因幡守年子はゆきさかきさかき  
平為因幡守はゆきさかきさかき  
四品阿保親王男  
公卿補任云天慶六年任中納言寛平五年薨七十五

在原業平朝臣



古今集秋下 二條の后高子大政大臣東宮貞明の侍臣  
竹原屋長良の女東宮貞明の侍臣  
秋のころらさかきさかきさかきさかき  
秋のころらさかきさかきさかきさかき  
秋のころらさかきさかきさかきさかき  
古今六帖霜の都  
このころらさかきさかきさかきさかき  
志をたかきさかきさかきさかき  
三代實録云業平者故四品阿保親王第五之子正三位行中納言  
行平也阿保親王娶桓武天皇皇女伊登内親王生業平

壬生忠岑 右  
ねの  
子日すの



拾遺集春 卷一

秋のころらふ日するころのづゝ  
小室のあけくさばを代りては  
ひき用ひん小枝のめりて  
のころみく引まわす  
子日の名一おの子日の修い  
忠孝先祖不詳作者部類云後五位  
下安經子云一説府生木工允忠  
衛子  
古今集序云右衛門府生

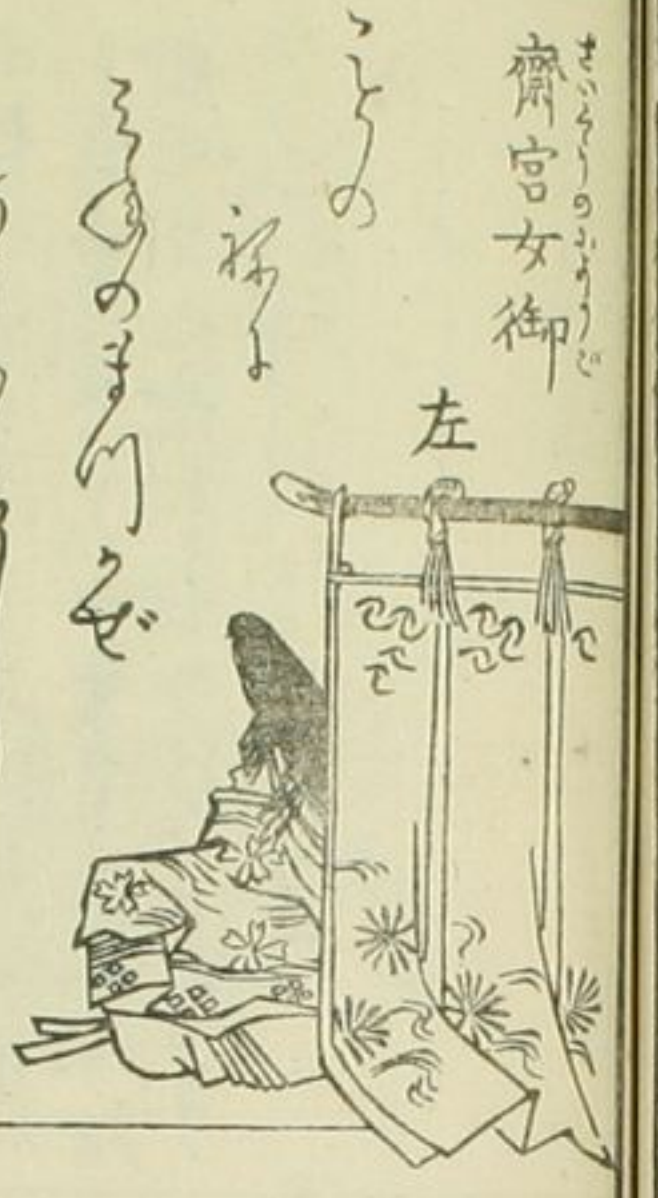
藤原敏行朝臣  
すけの



古今集意

寛平中多清時后の宮めりて  
后宮ハ七條后温子昭宣代草紙云仁和四年十月六日  
秋のころらひひきまわす  
古今集序云  
南家祖出智麻呂云六代孫陸奥出羽按察使富士麻呂一男  
歌仙傳云 寛平九年七月十三日叙後四位上九月任右  
兵衛督延喜七年卒

齊宮女御



拾遺集雜上 野宮  
延喜式第五凡天皇即位者延伊勢大神宮  
王仍簡内親王未燦者上之云云  
勅使於彼家告事由神祇依已上一人車  
下隨勅使共向卜部解除神部以本綿著賢  
木立殿四角及内外門凡齊内親王定了即  
上宮城内便所為初齋院後後而入至干明  
年七月齋於此院更上城外淨野造野宮  
八月上旬卜定吉日臨河後後而入野宮自遷  
入日至干明年八月齋此宮九月上旬卜定吉日  
臨河後後入於伊勢齋宮云

齊宮女御  
拾遺集雜上 野宮  
延喜式第五凡天皇即位者延伊勢大神宮  
王仍簡内親王未燦者上之云云  
勅使於彼家告事由神祇依已上一人車  
下隨勅使共向卜部解除神部以本綿著賢  
木立殿四角及内外門凡齊内親王定了即  
上宮城内便所為初齋院後後而入至干明  
年七月齋於此院更上城外淨野造野宮  
八月上旬卜定吉日臨河後後而入野宮自遷  
入日至干明年八月齋此宮九月上旬卜定吉日  
臨河後後入於伊勢齋宮云

伊勢



新古今集意

日野家祖真夏云四代孫前大和守後五位上藤原總蔭  
拾芥抄云寬平法皇御息所行明親王ヲ産人也  
袋草紙云後園法所草紙云車の後よりゆかり二葉葉の洞  
の御の家の後あり云



源重之 右

うををい  
あまの  
あまの  
あまの  
あまの



詞花集意上

冷泉院 御諱 嘉平村上  
天皇 尊仁 皇子

母皇后藤原安子九条  
右大臣師輔之女 嘉平宮 皇子 尊仁 皇子

清和天皇 貞元親王 一 兼信 賜源氏  
治部卿 兼忠男

歌仙傳云長保年中於陸奥國卒

源宗干朝臣 左

まの  
まの  
まの  
まの  
まの



古今集春上 寛平御時 皇太子  
の宮 七条后 温子 昭宣公女 皇太子

續万葉論云やまのい  
ひて 船の  
ひて 船の  
ひて 船の  
ひて 船の

文屋康秀

ふくうに  
あまの  
あまの  
あまの  
あまの



古今集秋下

記 皇太子 尊仁 皇子

秋のこころは秋のすまよあ  
くまのの 保 皇太子 尊仁 皇子

新撰万葉のあ  
文屋真人の 姓氏録云天武天皇皇子二品長親王之

後世の 皇代記一品トアリ

康秀の父祖不知人  
作者部類云元慶三年任縫殿卿

大江千里

あまの  
あまの  
あまの  
あまの  
あまの



古今集秋上

秋のこころはあまのあまのあまのあまのあまの

或説白氏易の秋身の訪小燕子樓中霜月夜秋未只

為一人長てふを引り大江氏の儒家をことおらのこころ

白氏文を引用しあまのあまのあまのあまのあまの

拾芥抄云泰議音人卿男

作者部類云延喜三年任兵部大掾

源信明朝臣右

今宵の月を  
あはれ  
まはるる



拾遺集意三 月のあつかりたる夜

家集初書かかをの... 月のあま

父八前右大臣公忠朝臣  
歌仙傳云應和元年十月任陸奥守  
安和元年十二月五日叙後四位下  
天禄元年月日卒六十一

藤原清正左

天はうぜ

ふるわの浦

あまの  
くさの  
こころ



新古今集雜

殿上をまろね

殿上をまろね... 新古今集雜... 天徳二年七月卒

菅家

あはれ  
まはるる

あはれ  
まはるる

あはれ  
まはるる

あはれ  
まはるる

神のまふ



古今集羈旅

朱雀院

神諱寛明醍醐第十一河子母

向山万葉小長谷王駐馬寧樂山... 佐保過而寧

此梅幸八昌泰元年十月宮内卿... 素性法行

公卿神任云 昌泰二年右大臣四年四月廿五日太皇太后

延喜三年二月廿五日薨於西府父參議後三位是善師

三條右大臣

あはれ  
まはるる

あはれ  
まはるる

あはれ  
まはるる

あはれ  
まはるる

あはれ  
まはるる



後撰集意五

和名敏種本單注云五味和名作和皮  
肉甘酸核中辛苦都有鹹味故名五味也  
三茶右大臣 定方公内大臣高藤公二子  
日本記畧云延長二年正月任右大臣美平二年八月薨

源順 右

水のたけふ

ついでに  
このれを  
秋の  
たけふ



拾遺集秋 原風八月十五夜地  
ある家の人あまきびしつさ  
秋のこころい水のゆもふては月夜  
いりてまよひてゆもふては月夜  
うらひつゝ水をこころいふは月夜  
なりしつゝ水をこころいふは月夜  
いりてまよひてゆもふては月夜  
いりてまよひてゆもふては月夜  
月正のあまの細もはらへては月夜  
拾芥拔云左馬允舉男春宮藏  
人能登守從五位下

藤原真風 左

まつり

まつりの  
友あまきふ



古今集雜 巻一  
拾芥拔云泰議演成孫道成男號  
院藤大下総推大掾延喜十一相  
模掾後五位下  
歌仙傳云昌泰三年三月十一日  
任相模掾延喜二年二月廿三日  
治部少丞四年正月廿五日任上  
野大掾十四年四月任下総推  
大掾 清和院

眞信公

小倉山

いづれ  
いづれ



拾遺集雜秋 皇子院上皇 大井川上御幸  
行幸今上はのりてあまきふ 作  
秋のこころい水のゆもふては月夜  
いりてまよひてゆもふては月夜  
いりてまよひてゆもふては月夜  
いりてまよひてゆもふては月夜  
いりてまよひてゆもふては月夜  
いりてまよひてゆもふては月夜  
いりてまよひてゆもふては月夜  
いりてまよひてゆもふては月夜  
いりてまよひてゆもふては月夜  
眞信公 昭宣公四男母彈正尹本康親王御女  
公卿補任云承平六年八月太政大臣攝政 天曆三年  
八月薨七十贈正一位謚眞信公封信濃国  
皇代記云天曆三年八月廿四日薨

中納言兼輔

泉川

いづれ  
いづれ



新古今集意 巻一  
泉川 山城國相樂郡 聖武天皇なりより志  
山城國相樂郡 今日本紀崇神  
天皇紀云官軍云進到輪轉河埴安彦狹河屯之各  
相挑焉故時人改号其河曰挑河今謂泉河訛也



清原元輔 右  
秋の夕暮の  
銘平  
吾やゆよ



家集 小翠のふれあふまはまを  
峰のふつ... けりし...

深養父孫後五位下行下總守泰光  
一男  
母ハ後五位下筑前守高向利生女

坂上是則 左



古今集冬 才へみ系...  
續万葉論云此歌... 六甲...  
のし太和の国... せむ... 山... 万葉...  
天武の御... せむ... せむ...  
てて... せむ... せむ...  
事... せむ... せむ...  
せむ... せむ... せむ...  
せむ... せむ... せむ...  
傳ハ五人一首のみ

源宗千朝臣  
山里をみる  
備へせ



古今集冬 冬のも...  
秋の... 花... 枝...  
... 山... 山...  
皇代記云... 光孝天皇皇子一品式部卿親王  
納言... 三  
歌仙傳云天慶二年正月叙正四位下同年、平  
作者部類云天慶三年六月十日卒

凡河内躬恒



古今集秋下 ち... 花...  
秋の... 花... 枝...  
... 山... 山...  
歌仙傳云寛平六年二月廿八日任甲斐権女目延喜  
七年正月十三日任丹後女目所  
泉権掾  
作者部類云延喜廿一年正月晦日任淡路権掾  
父祖不知人凡河内ハ古事記云天津彦根命後

藤原元真 右

家集一卯名  
藤原元真の  
歌仙傳云天德五年正月七日叙從五位上諸司  
康保三年正月廿七日任丹波



古今集意三 卷一  
古今集意三 卷一  
古今集意三 卷一  
古今集意三 卷一

壬生忠岑  
あしあけ  
つらみ  
つらみ  
つらみ



古今集冬 大和  
古今集冬 大和  
古今集冬 大和  
古今集冬 大和

坂上是則

あきほくけ  
あきほくけ  
あきほくけ  
あきほくけ



三條院女藏人左近

拾遺集意 大納言  
拾遺集意 大納言  
拾遺集意 大納言  
拾遺集意 大納言



拾遺集冬 大和  
拾遺集冬 大和  
拾遺集冬 大和  
拾遺集冬 大和

古今集冬 大和  
古今集冬 大和  
古今集冬 大和  
古今集冬 大和

藤原仲文 右

あまのあまの  
ひら  
まの  
つづ  
まの  
まの  
まの



拾遺集雜上 冷泉院東宮

八月二日叙正五位下

正曆三年二月卒

夜ふせを

信濃守公高 二男

可仙傳云 貞元二年正月任上野

大中臣能直朝臣 左

ねぢ



ねぢ  
ねぢ  
ねぢ

拾遺集春 入道式部卿

正曆三年八月九日卒

拾芥抄云 祭主頼基男

歌仙傳云 天禄三年十一月補

寛和二年十一月十八日叙正四位下

正曆三年八月九日卒

春道列樹

山  
川  
け  
き  
の



古今集秋下

春道宿祢三代實録

貞觀六年五月右京人因幡權

掾上六位物部門起賜姓春道宿祢云

或説云 新名宿祢一男延喜十年五月十九日補文章生

紀友則



花の  
影

古今集春下

後撰集

孝元天皇皇子 彦太忍信命 苗裔 紀本道 孫宮内権少輔

有明子

歌仙傳云 寛平九年正月十一日任玉佐 掾同十六年正月



中務 右

秋の気

あつたき

あつたき

あつたき

あつたき

あつたき



後撰集意四

平の

秋の

秋の

秋の

秋の

秋の

秋の

秋の

秋の

秋の

秋の

秋の

秋の

秋の

秋の

秋の

秋の

秋の

秋の

秋の

秋の

秋の

秋の

秋の

秋の

秋の

秋の

秋の

秋の

秋の

秋の

秋の

秋の

秋の

秋の

秋の

秋の

文屋朝康

秋の

秋の

秋の

秋の

秋の

秋の

秋の

秋の

秋の

秋の

秋の

秋の

秋の

秋の

秋の

秋の

秋の

秋の

秋の

秋の

秋の

秋の

秋の

秋の

秋の

清原深養父

秋の

秋の

秋の

秋の

秋の

秋の

秋の

秋の

秋の

秋の

秋の

秋の

秋の

秋の

秋の

秋の

秋の

秋の

秋の

秋の

秋の

秋の

秋の

秋の

秋の

秋の

秋の

秋の

秋の

秋の

秋の

秋の

秋の

秋の

秋の

秋の

秋の

秋の

秋の

秋の

秋の

秋の

秋の

秋の



古今集夏

秋の

秋の

秋の

秋の

秋の

秋の

秋の

秋の

秋の

秋の

秋の

秋の

秋の

秋の

秋の

秋の

秋の

秋の

秋の

秋の

秋の

秋の

秋の

秋の

秋の

後撰集秋中

秋の

秋の

秋の

秋の

秋の

秋の

秋の

秋の

秋の

秋の

秋の

秋の

秋の

秋の

秋の

秋の

秋の

秋の

秋の

秋の

秋の

秋の

秋の

秋の

秋の







新代若言

新代若言の御代は...  
御代は...  
御代は...

秘白茶

秘白茶の御代は...  
御代は...  
御代は...

隆源法師

隆源法師の御代は...  
御代は...  
御代は...

夜麻賀多

夜麻賀多の御代は...  
御代は...  
御代は...

比登等

比登等の御代は...  
御代は...  
御代は...

母神流

母神流の御代は...  
御代は...  
御代は...

信實

信實の御代は...  
御代は...  
御代は...

忠度

忠度の御代は...  
御代は...  
御代は...

頼基

頼基の御代は...  
御代は...  
御代は...

お井

お井の御代は...  
御代は...  
御代は...

女子日事

女子日事の御代は...  
御代は...  
御代は...

公孫根源

公孫根源の御代は...  
御代は...  
御代は...

院三條

院三條の御代は...  
御代は...  
御代は...

上皇

上皇の御代は...  
御代は...  
御代は...

衣

衣の御代は...  
御代は...  
御代は...

手

手の御代は...  
御代は...  
御代は...

引

引の御代は...  
御代は...  
御代は...

清原元輔

清原元輔の御代は...  
御代は...  
御代は...

油

油の御代は...  
御代は...  
御代は...

十

十の御代は...  
御代は...  
御代は...

後撰集意

後撰集意の御代は...  
御代は...  
御代は...

日本紀

日本紀の御代は...  
御代は...  
御代は...

新羅

新羅の御代は...  
御代は...  
御代は...

東日

東日の御代は...  
御代は...  
御代は...

西日

西日の御代は...  
御代は...  
御代は...

出河

出河の御代は...  
御代は...  
御代は...

石

石の御代は...  
御代は...  
御代は...

春

春の御代は...  
御代は...  
御代は...

秋

秋の御代は...  
御代は...  
御代は...

冬

冬の御代は...  
御代は...  
御代は...

夏

夏の御代は...  
御代は...  
御代は...

春

春の御代は...  
御代は...  
御代は...

秋

秋の御代は...  
御代は...  
御代は...

冬

冬の御代は...  
御代は...  
御代は...

夏

夏の御代は...  
御代は...  
御代は...

春

春の御代は...  
御代は...  
御代は...

秋

秋の御代は...  
御代は...  
御代は...

冬

冬の御代は...  
御代は...  
御代は...

夏

夏の御代は...  
御代は...  
御代は...

春

春の御代は...  
御代は...  
御代は...

秋

秋の御代は...  
御代は...  
御代は...

冬



推中納言敦忠

推中納言敦忠の御代は...  
御代は...  
御代は...

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ







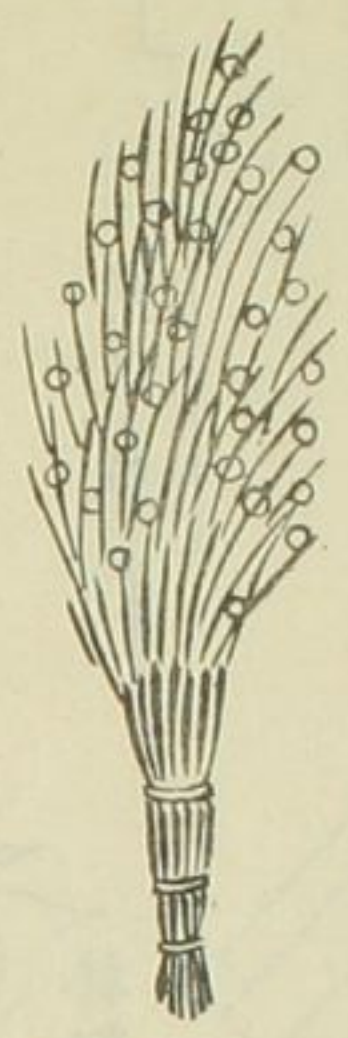
○玉幣之事

万葉集廿卷云二年 天平 正月三日

召侍後 豎子 王目等 命侍於内裏之  
東屋垣下 昂賜玉幣 肆算干 時内相  
藤原朝臣奉勅 宣諸王卿等 隨地  
任意作哥并賦詩 仍應詔旨 各陳  
心緒 作歌賦詩

始春乃波 都祢乃家布能多麻  
婆波岐手 爾等流可良 爾由良久  
多麻能乎

東大寺藏玉幣圖



真洲羽云 云云云云云云云云云云  
云云云云云云云云云云云云云云  
云云云云云云云云云云云云云云  
仲實

隆季

通親

俊成

俊賴朝臣 名抄云 著云云云云云  
の云云云云云云云云云云云云  
の云云云云云云云云云云云云  
の云云云云云云云云云云云云  
の云云云云云云云云云云云云  
の云云云云云云云云云云云云  
の云云云云云云云云云云云云  
の云云云云云云云云云云云云  
の云云云云云云云云云云云云  
の云云云云云云云云云云云云  
の云云云云云云云云云云云云  
の云云云云云云云云云云云云

源重之

風をい〜



詞花集 遠 冷泉院 村上天皇身二卿子河野皇居藤原  
東宮の〜〜〜 対ふ首の歌云〜〜〜 何よ〜  
秋の〜〜〜 物言ひを〜〜〜 物言ひを〜  
うつ夜の〜〜〜 物言ひを〜〜〜 物言ひを〜  
万葉集 冬野ツヤマガハイハニキミカガクシマノモタス  
兩零者 瀧都山河於石觸君之推情者不持  
六帖 傳ハ歌仙の云の云々

大中臣能宣朝臣



詞花集 遠 冷泉院 村上天皇身二卿子河野皇居藤原  
火の 渾身の〜〜〜 渾身の〜〜〜 渾身の〜  
諸出入者 衛士ハ法国小軍團ヨリ以テ良民の三丁の中ヨリマツチヨリテ重  
了を〜〜〜 了を〜〜〜 了を〜〜〜 了を〜〜〜 了を〜〜〜 了を〜〜〜 了を〜〜〜 了を〜〜〜 了を〜〜〜

曲水宴 三月三日

公史根源云... 漢書外戚傳... 孟康曰... 今三月上巳... 公朝... 意圓... 漢人毛拔浮而遊云今日曾我執故花

藤原義孝



ま... 命... ね... ね...

後拾遺集意... 藤原義孝... 義孝右近衛將領五位下天延二年九月卒

藤原實方朝臣



拾遺集意... 藤原實方朝臣... 義孝右近衛將領五位下天延二年九月卒

大... 吾... 孟... 勝... 桃... 上巳... 草餅... 幽王王嘗其味為美也王曰是餅珍物也







後拾遺集意 大貳三位

有馬山ヤマトの

さるる

うきうき

まじり

あはれ

あはれ

あはれ

あはれ



公事根源云々

六月枝

公事根源云々

六月枝

公事根源云々

六月枝

公事根源云々

六月枝

公事根源云々

六月枝

大貳三位

有馬山ヤマトの

さるる

うきうき

まじり

あはれ

あはれ

あはれ

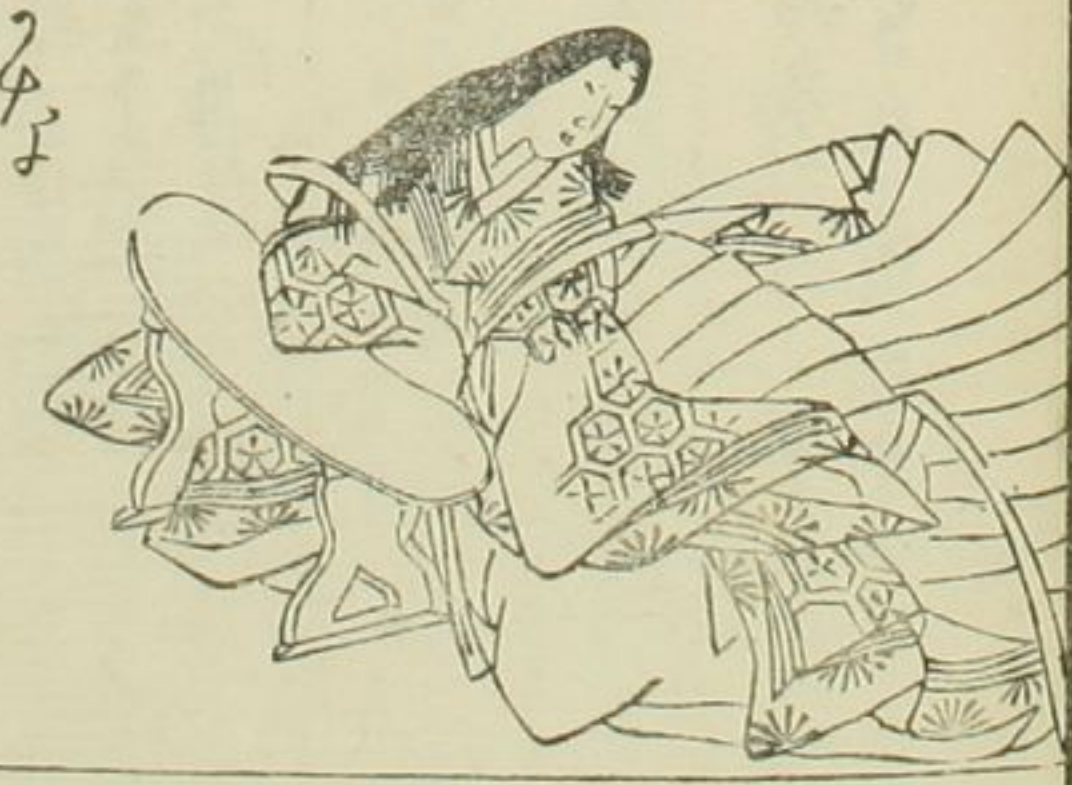
あはれ

赤染右衛門

屋す

小お

つむ



後拾遺集意 中園白道隆

公事根源云々

六月枝

公事根源云々

六月枝



日本紀天武天皇紀云五年八月辛亥詔  
曰四方為大群除用物則別國造輸板  
柱馬一匹布一常以外郡司各刀一口鹿  
皮一張鐵一口刀子一口鎌一口矢一具  
櫛一栳且每戶麻一條  
園大曆延文二年六月廿日條云

六月極之支  
一重服人憚之支流例  
一輕服人除服以後雖曾救之不憚  
一永德二年大園并園白殿六月極之事  
涉除服以後之支勿論教道言之所存  
涉之相違歟

一為應建春門院涉後涉除服之有無  
不見教定之有涉除服執行然又勿論  
師遠家景等之說於重服人者可憚  
一氣勿論之姓者可憚之支勿論之  
一向不憚之支

一鹿食人林吾事所見只今亦分明但於  
此七七日以後不可憚之由定之支然  
被救日救以後之支  
一檄中禁吾事天永保安女復例相先  
見及之所詮檄中大臣被同前  
或行之或憚之然者其例不同歟

以上

一輕服人除服以後不憚之支勿論之  
為假日救令除服者何之支勿論  
一重服人子憚之支勿論但同如人之支  
不憚歟  
一喪家不憚穢多之支勿論但同如人之支  
華錄并行之支勿論又出他  
用菅貫之末猶以之廢支然但同  
以上

因書延文三年六月廿日今日六月極重  
喪又忌之師遠說大而外記師遠六  
月極重服系姓之雖物不官貫陰  
陽以宗家說又同之然之實效元  
未雖之腹之支勿論上暮月雖令然  
之今夜後極之支勿論大切歟然之支  
不見之支勿論之支勿論之支勿論  
必計之支勿論之支勿論之支勿論  
子細直迫滿也二代六月極之日  
抄後之支勿論之支勿論  
山摺記治承二年六月廿九日壬辰天晴  
午後大雨支節於諸事又先六月  
極月以行古家或今夜極之支  
先例之支勿論之支勿論之支勿論  
元年六月極貞觀元年同延喜元年同

小式部内侍  
大江山  
あまの  
ほろろぞ



金葉集雜 和泉式部保昌  
母和泉式部 上東門院女房  
尾花物語 志げのひひねの成のちりてりせり  
文の端をひひ  
母和泉式部 保昌のちりてりせり  
尾花物語 志げのひひねの成のちりてりせり  
文の端をひひ

詞花集春 一條院の御時  
いせのちゅう  
伊勢大輔  
ちりてりせり  
あまの  
ほろろぞ

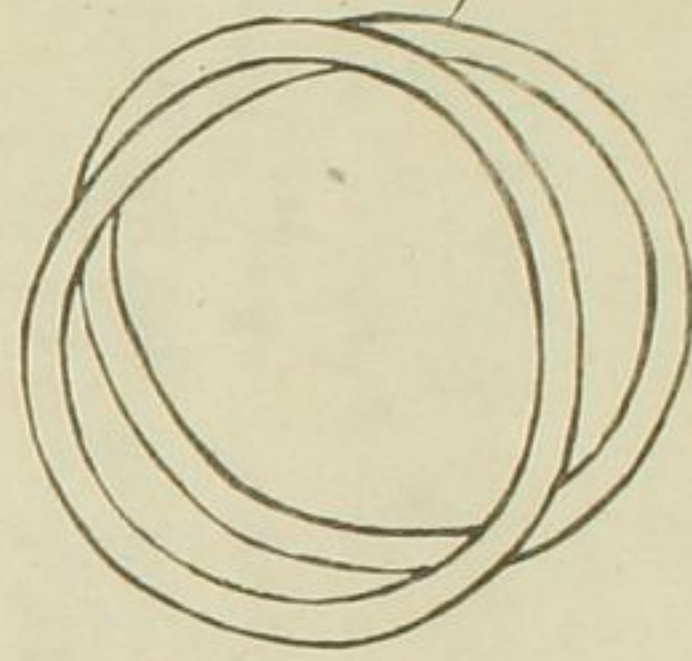


詞花集春 一條院の御時  
後拾遺集名傷の部  
父八祭主大中臣韓親朝臣  
うけり

同廿年 同長和四年 同長元七年 同永保三年  
 同父安 同大同以後 久安四年 近壬六月年  
 大畧如此 踰延喜長和四長元七永保  
 久安四亦之年 皆以正月 被行之終 則  
 ハケ度之中 已及五々度 先以正月 被行歟

茅ノ輪圖

千カヤヲワカ子テ  
 上ヲ厚紙ニテ  
 マキノリニテ  
 トムル



菰筒圖  
 シノウヘ子巻マキタル  
 紙ヲ折カシノリニテ  
 トムル



園大曆貞和五年六月廿日天晴今日  
 六月菰筒圖 予並大夫出座 公卿座為  
 陪膳光顯朝臣 衣冠 役送 永季 布衣  
 御輪 女房 高倉 為 陰陽師 下家司

皆知例

院中年中行吏云六月廿日公卿座為  
 アリス 此附輪 予並大夫出座 公卿座為  
 調ル上ニメサル、時ハ中臈 内侍 為  
 ナリ 次ニ別當ヨリ 以下 諸人 為之 輪ニ入  
 ヤラ 復右ノ手ニ 麻ノ葉ヲ 長一尺計  
 ニ 三本 紙ニツキ 持テ 左ノ足ヨリ  
 入右ヨリ 出ル以上 三度ナリ 此時 哥アリ  
 オモフコト 皆ツキ子トテ 麻ノハヨキリ  
 ニキリテモ ハフヘシルカナ

●七の輪 為家  
 丈九

●菅貫 師頼

●夫九  
 ●友接  
 ●中川  
 ●密活  
 ●月

●密活  
 ●月

清少納言

ゆきこころ  
 はつれ  
 あらまの  
 宮をゆく



後拾遺集雜

大綱を以て 後拾遺集雜 大綱を以て 後拾遺集雜  
 肉の所を 後拾遺集雜 大綱を以て 後拾遺集雜  
 史記 齊孟嘗君 卷之 後拾遺集雜 大綱を以て 後拾遺集雜  
 父ハ清原元輔

左京大夫道雅

いま  
 くら  
 くら  
 くら



後拾遺集意

三條院 皇女 志の 後拾遺集意 三條院 皇女 志の  
 公卿補任云長和三年後三位左中將萬壽三年四月  
 遷左京權大夫

麻之川へ入る川... 三條左大臣... 隆季... 西行... 公朝... 影照... 保康... 隆季... 西行... 公朝... 影照... 保康...

麻之川へ入る川... 隆季... 西行... 公朝... 影照... 保康...

權中納言定賴  
 物かげ  

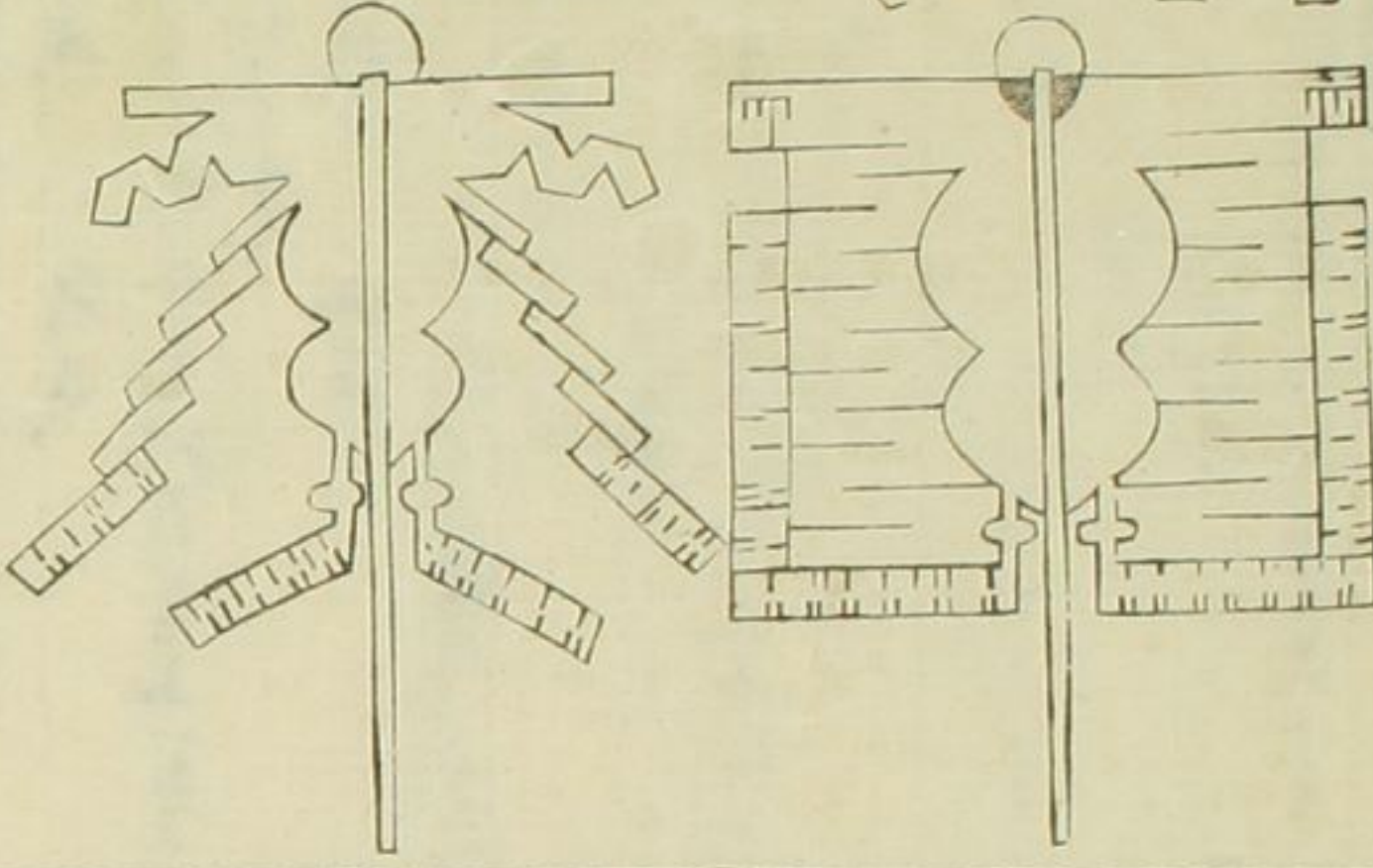

子載集冬... 延喜式内膳式云山城国... 公卿補任云... 二年正月薨...

相換  
 うみみぶ  


後拾遺集意... 永承六年... 入道一品宮女房...

夫九  
つふせん...  
か...  
...

人形仕立圖  
三申チ加此ニ  
串三サメバ  
裁目ノ処  
幣ノ如クニ  
タレサカレク



人形ノ圖

大板  
み...  
...

○七月七日 乞巧奠事

公事根源云...  
乞巧奠事...  
...

大僧正行尊

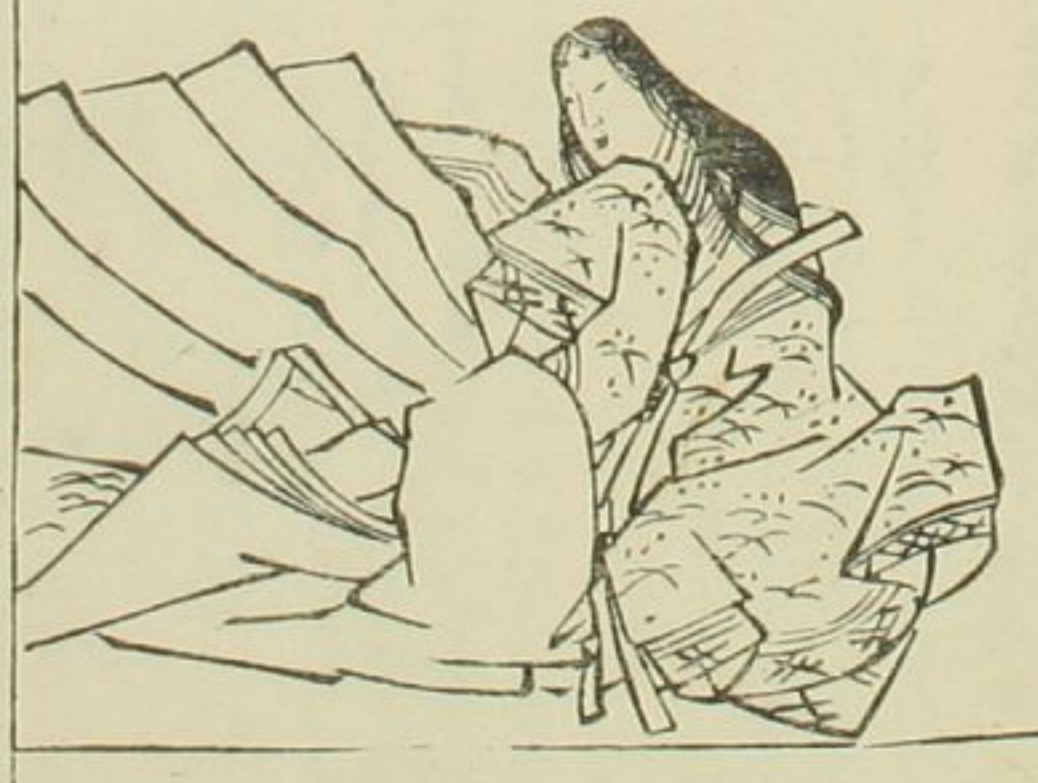
山...  
...



金葉集雜上...  
大率...  
...

周防内侍

美のよれ  
ゆえ...  
...



千載集雜上...  
周防内侍...  
...

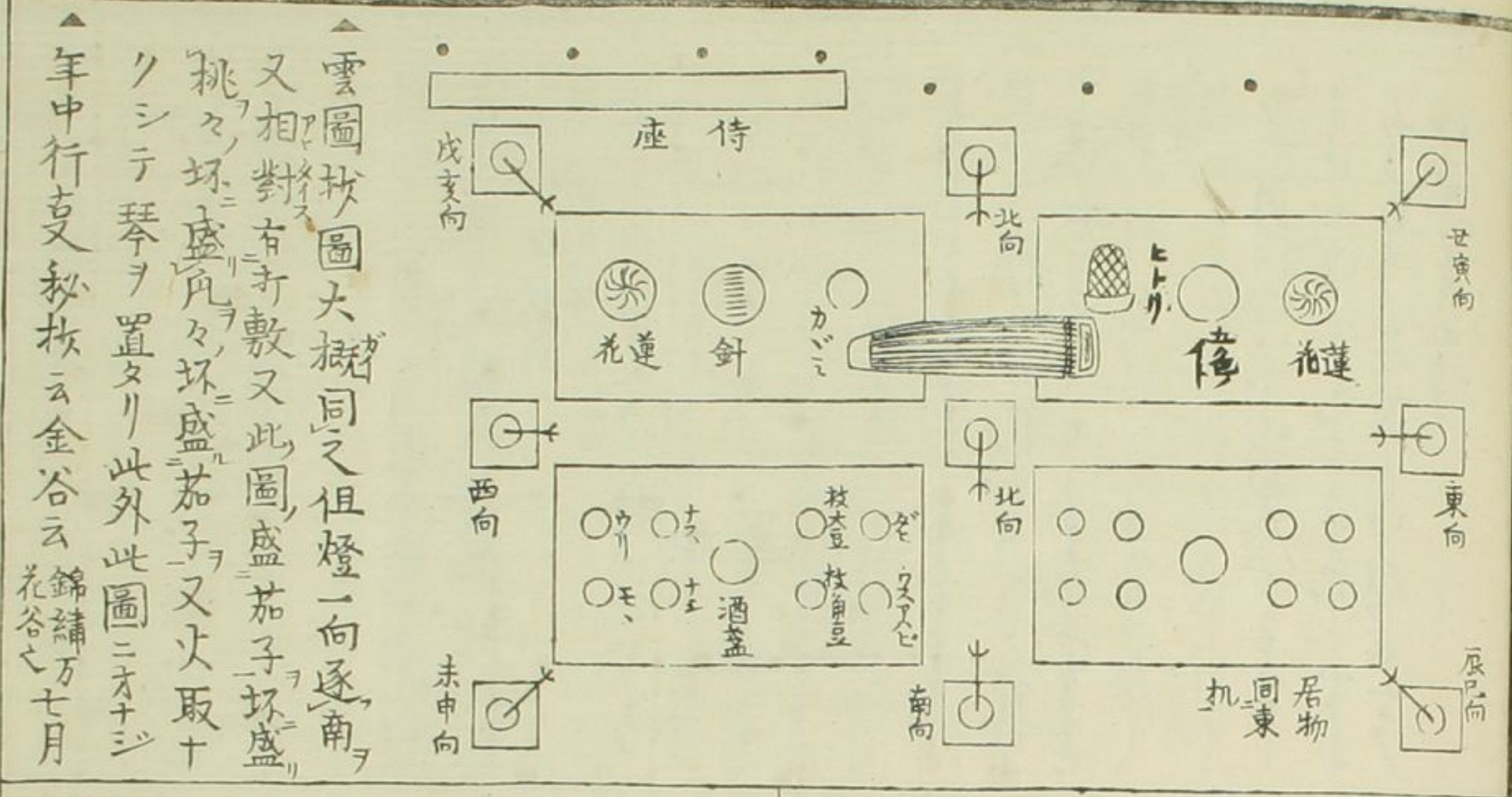


中掃部寮敷兼薦二枚其上絶長  
 菱毒 其上立赤漆高机四脚皆  
 西毒件机木工發進之而依與機美北  
 簾造調為永年物在廳今日用之北  
 脚居十六坪色目見南二脚中央横置  
 筆一張南西机辰巳角居火取一  
 查其西敷楸葉一枚碗置五色糸  
 其西敷同兼盛蓮南東机未申角居  
 御鏡一面圓蓋其東敷楸葉一枚差  
 金銀針各二穿五色其東敷同兼  
 又盛蓮花立燈臺九本三行立之  
 北廊北砌内掃部寮司敷帖為侍  
 等通夜座諸司女官侍等  
 供奉雜役長以下無官侍兼日催當  
 日參集刻限結番次第通夜程候檢  
 知行吏官司同前自御所申出物  
 琴 火取 御鏡  
 内侍女官持參白粉散廳并備  
 衛重進大盤所又居侍所賀加例  
 廳相云七巧莫料米五石四斗  
 油三升

良暹法師  
 秋の夕ぐれ  
 ちぎり  
 ちぎり  
 ちぎり  
 ちぎり  
 ちぎり

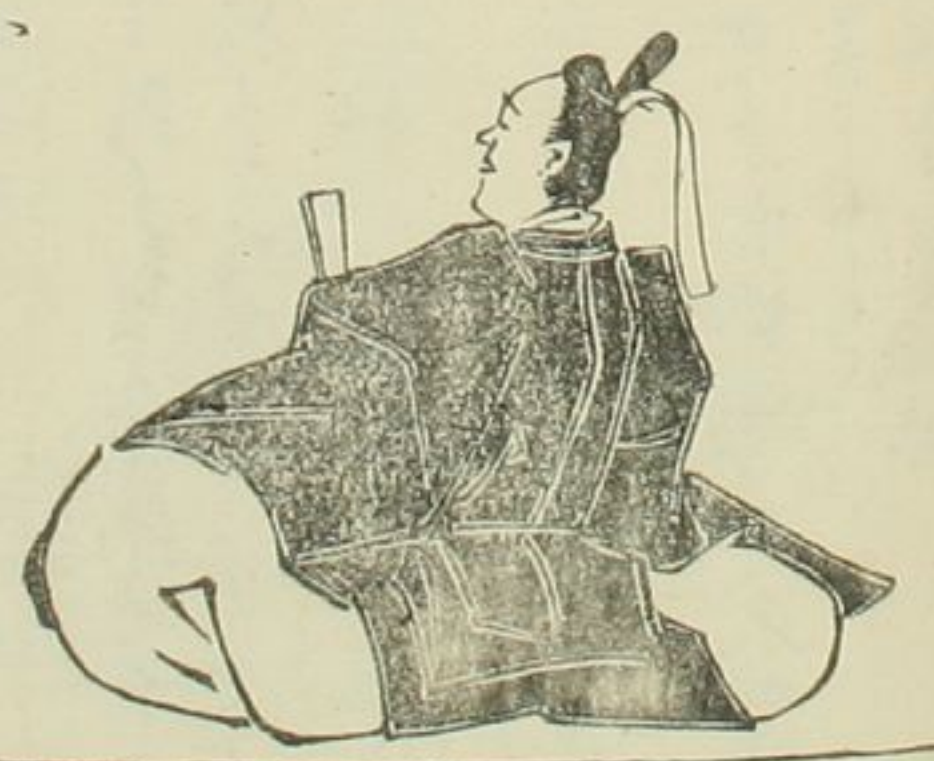


後拾遺集秋上 琴  
 秋の夕ぐれ  
 作者部類云父祖不詳母實方家童白菊



雲圖抄圖大概同之但燈一向逐南  
 又相對有打敷又此圖盛茄子坏盛  
 桃々坏盛瓦々坏盛茄子又火取十  
 クシテ琴ヲ置タリ此外此圖ニオナジ  
 年中行吏秘抄云金谷云錦繡万七月  
 花谷云七月

大納言経信  
 秋の夕ぐれ  
 秋の夕ぐれ  
 秋の夕ぐれ



金葉集秋 傳賢秋長  
 父中納言道方卿  
 公卿補任云寛治五年大納言八年六月大宰權帥嘉保三年壬  
 正月薨於西府八十



おもしろきことなりて七日ハ七百首の歌  
七調子管絃・七十韻連句・七十韻  
の連歌・七百の数の歌なり。七献の  
酒酒をさむくものよしと云ふ事なる  
あらざり

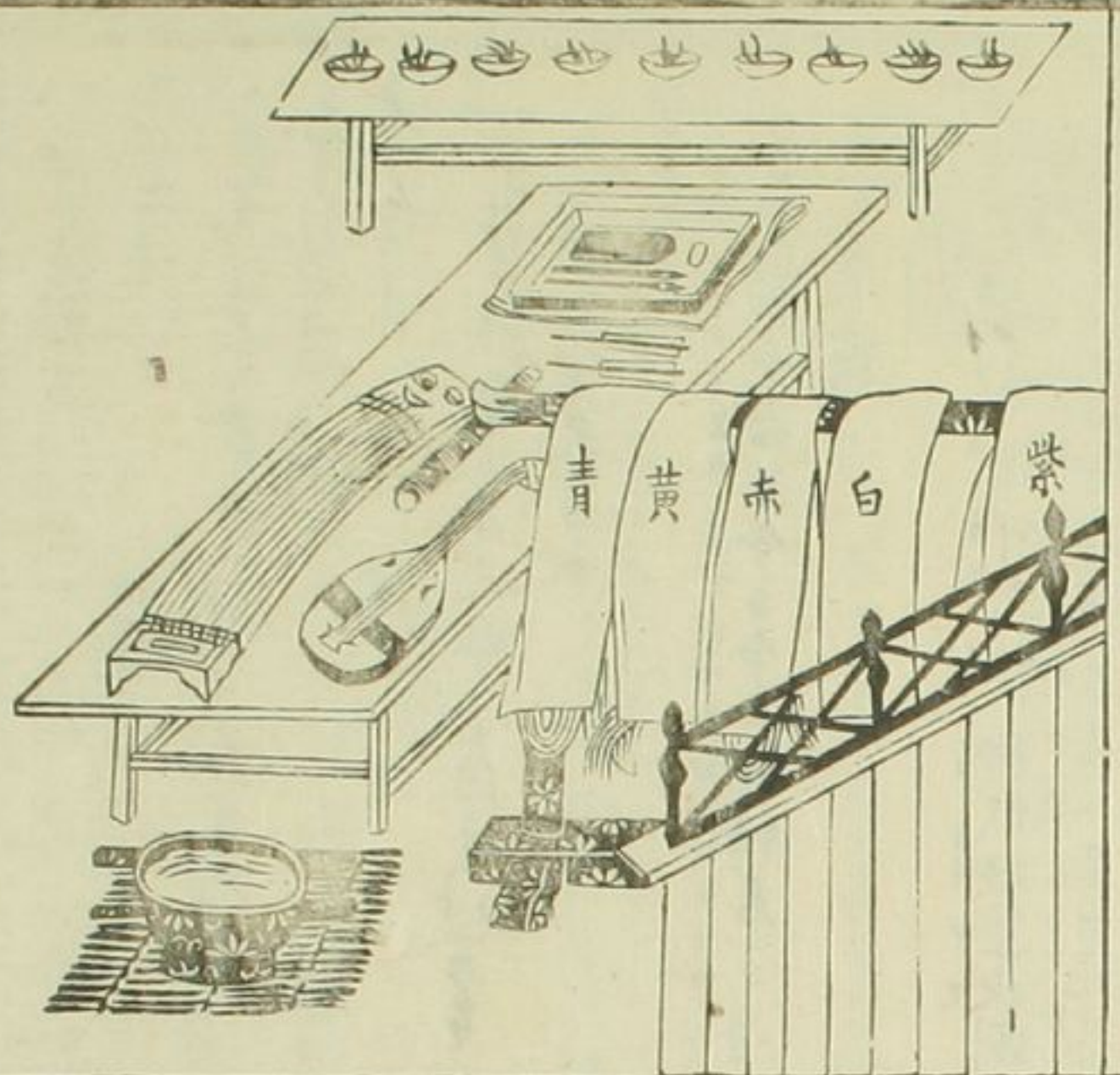
康富記云享徳三年七月丁巳柳  
今夕於<sup>テ</sup>林中<sup>ニ</sup>セツ物セツ<sup>以上五</sup>其後  
御代被<sup>レ</sup>興行<sup>レ</sup>之後絶<sup>レ</sup>仍洞院内府  
有<sup>レ</sup>申沙汰<sup>レ</sup>既可有<sup>レ</sup>之由治定<sup>レ</sup>之由  
樂人等有<sup>レ</sup>申子細事各不<sup>レ</sup>恭俵<sup>レ</sup>仍  
俄<sup>レ</sup>被<sup>レ</sup>畧<sup>レ</sup>云々

親長卿記云文明十二年七月七日  
晴今日七種夏

一 鞠 一 揚弓 一 樂  
一 野曲 一 故障無之 一 和漢五干  
一 和歌 兼日七首

當日被<sup>レ</sup>構 講師 元長  
飛鳥井真門  
一七孟飲 予  
中御門中納言 飛鳥井中納言  
侍從中納言 新宰相基經

元長 寂言入道  
空済法眼 富就朝臣  
俊通 三善清坊  
永有 景益  
酒<sup>又</sup>有揚<sup>其</sup>茶鞠<sup>亦</sup>仍<sup>兼</sup>興<sup>也</sup>



ひこが  
牛織女今宵相天漢門尔波立  
加謹  
ひこがのつらみの秋をさへり

源俊頼朝臣

うらうらと人をさ  
まじき人  
山はら  
いのね  
ものを



千載集意 権中納言俊忠の  
首の歌よき有りくあめ時新  
のうらうらと人をさまじき人  
山はら  
いのね  
ものを  
初瀬子意をいひて六帖  
いひつゝおぼせしは泊瀬川  
父ハ大納言經信卿

藤原基俊

ちまひと  
さやもつ  
あふ  
いのちの  
あふ  
秋をいぬめり



千載集雜上 僧光孝子繼  
真福寺の雅厚なる十月十日  
をまじき人  
あふ  
いのちの  
あふ  
秋をいぬめり  
父ハ正二位右大臣俊成  
母ハ下野守順業女  
後五位下左衛門佐



さああの人をこりま

天漢橋音聞孫星と織女今宵相霜

あつぱりのつめ

あつぱりのつめ

あつぱりのつめ

あつぱりのつめ

あつぱりのつめ

あつぱりのつめ

あつぱりのつめ

あつぱりのつめ

あつぱりのつめ

あつぱりのつめ

あつぱりのつめ

あつぱりのつめ

あつぱりのつめ

あつぱりのつめ

あつぱりのつめ

あつぱりのつめ

あつぱりのつめ

あつぱりのつめ

あつぱりのつめ

あつぱりのつめ

あつぱりのつめ

あつぱりのつめ

あつぱりのつめ

あつぱりのつめ

あつぱりのつめ

あつぱりのつめ

あつぱりのつめ

あつぱりのつめ

あつぱりのつめ

あつぱりのつめ

あつぱりのつめ

あつぱりのつめ

あつぱりのつめ

あつぱりのつめ

あつぱりのつめ

あつぱりのつめ

あつぱりのつめ

あつぱりのつめ

あつぱりのつめ

あつぱりのつめ

法性寺入道前關白太政大臣

わふれ

こふれ

こふれ

こふれ

こふれ

こふれ

こふれ

こふれ

こふれ

こふれ

こふれ

こふれ

こふれ

こふれ

こふれ

こふれ

こふれ

こふれ

こふれ

こふれ

こふれ

こふれ

こふれ

こふれ

こふれ

こふれ

こふれ

こふれ

こふれ

こふれ

こふれ

こふれ

こふれ

こふれ

こふれ

こふれ

こふれ

こふれ

こふれ

こふれ

こふれ



詞花集雜 新院 崇徳院位下たりし時海上

わふれ

こふれ

こふれ

こふれ

こふれ

こふれ

こふれ

こふれ

こふれ

こふれ

こふれ

こふれ

こふれ

こふれ

こふれ

こふれ

こふれ

こふれ

こふれ

こふれ

こふれ

こふれ

こふれ

こふれ

こふれ

こふれ

こふれ

こふれ

こふれ

こふれ

こふれ

こふれ

崇徳院

せむせむ

せむせむ

せむせむ

せむせむ

せむせむ

せむせむ

せむせむ

せむせむ

せむせむ

せむせむ

せむせむ

せむせむ

せむせむ

せむせむ

せむせむ

せむせむ

せむせむ

せむせむ

せむせむ

せむせむ

せむせむ

せむせむ



詞花集意

わふれ

こふれ

こふれ

こふれ

こふれ

こふれ

こふれ

こふれ

こふれ

こふれ

こふれ

こふれ

こふれ

こふれ

こふれ

未論

あす  
もまをそくろくも不ふ山をやまの  
りのそをのり

天聖乃天漢上瀬珠橋渡下船  
船浮居雨零而風不吹登毛風吹而  
雨不洛等物表不濕不息未座帝  
玉橋渡

冷泉入道お右大臣  
のり

天漢打橋渡妹之家道不止通時不  
待友

崇徳院  
のり

啟官門院  
のり

後二修院  
のり

公經  
のり

清輔  
のり

光經  
のり

基俊  
のり

銀川  
のり

源仲  
のり

河津石所念

源無昌

あつじ  
ちぢ  
あつじ  
あつじ  
あつじ



金葉集冬

冬路の鳥...  
無昌八後五位下皇后宮大進

左京大夫顯輔

秋の...  
のり



新古今集秋上

崇徳院...  
顯輔八保定三年後三位五年左京大夫七年皇太后宮大  
夫久安四年正三位久壽二年五月出家

ついでにうらやま

六六 今此の世にあらざるものありてはさういふまじりやう

さやのついで

六六 河津のあたりにあるものありてはさういふまじりやう

さやのついで

六六 河津のあたりにあるものありてはさういふまじりやう

さやのついで

六六 河津のあたりにあるものありてはさういふまじりやう

さやのついで

六六 河津のあたりにあるものありてはさういふまじりやう

さやのついで

六六 河津のあたりにあるものありてはさういふまじりやう

さやのついで

六六 河津のあたりにあるものありてはさういふまじりやう

さやのついで

六六 河津のあたりにあるものありてはさういふまじりやう

さやのついで

六六 河津のあたりにあるものありてはさういふまじりやう

さやのついで

六六 河津のあたりにあるものありてはさういふまじりやう

さやのついで

六六 河津のあたりにあるものありてはさういふまじりやう

さやのついで

六六 河津のあたりにあるものありてはさういふまじりやう

さやのついで

六六 河津のあたりにあるものありてはさういふまじりやう

さやのついで

六六 河津のあたりにあるものありてはさういふまじりやう

さやのついで

六六 河津のあたりにあるものありてはさういふまじりやう

さやのついで

六六 河津のあたりにあるものありてはさういふまじりやう

さやのついで

六六 河津のあたりにあるものありてはさういふまじりやう

さやのついで

六六 河津のあたりにあるものありてはさういふまじりやう

さやのついで

六六 河津のあたりにあるものありてはさういふまじりやう

さやのついで

六六 河津のあたりにあるものありてはさういふまじりやう

さやのついで

六六 河津のあたりにあるものありてはさういふまじりやう

さやのついで

六六 河津のあたりにあるものありてはさういふまじりやう

さやのついで

六六 河津のあたりにあるものありてはさういふまじりやう

さやのついで

六六 河津のあたりにあるものありてはさういふまじりやう

さやのついで

六六 河津のあたりにあるものありてはさういふまじりやう

さやのついで

待賢門院

堀河

まごころ

まごころ

まごころ

まごころ

まごころ

まごころ

まごころ

まごころ

まごころ

まごころ

まごころ

まごころ

まごころ

まごころ

まごころ

まごころ

まごころ

まごころ

まごころ

まごころ

まごころ

まごころ

まごころ

まごころ

まごころ

まごころ

まごころ

まごころ

まごころ

まごころ

まごころ

まごころ

まごころ

まごころ

まごころ

まごころ

まごころ

まごころ

まごころ



後徳大寺右大臣

郭公

まごころ

まごころ

まごころ

まごころ

まごころ

まごころ

まごころ

まごころ

まごころ

まごころ

まごころ

まごころ

まごころ

まごころ

まごころ

まごころ

まごころ

まごころ

まごころ

まごころ

まごころ

まごころ



千載集 暁少輔親王... 祖父徳大寺左大臣... 後徳大寺殿 寛弘三年正月内大臣... 文治二年左大将十月右大臣五年七月左大臣... 久二年六月出家五十三

上総乳母  
後醍醐天皇御  
秋の羽衣  
六條院宣旨  
宗徳院  
貫之  
言経卿  
為重卿  
後醍醐天皇御

千載集意  
道因本名八教頼後五位下右馬助大系圖古



千載集雜中  
述懐小首  
父の権中納言俊忠卿  
公卿補任云安元二年二月皇太后宮大夫同二年  
九月出家六十三号釋阿元元元年晦日薨



平朝臣登織女之其屋戸分織白布織  
臣無鴨

後拾遺集  
後拾遺集

大納言忠良

源師光

政事 西川善房

春日社信末

新古今集

新古今集

新古今集

仙英

新古今集

新古今集

新古今集

新古今集

後醍醐天皇

後原清輔朝臣

あつしつへき

あつしつへき

あつしつへき

あつしつへき

あつしつへき

あつしつへき



新古今集雜

家集云三傳古大臣のいふに中ねあつしつへき

あつしつへき

あつしつへき

あつしつへき

あつしつへき

あつしつへき

あつしつへき

俊徳法師

より寸づもの

あつしつへき

あつしつへき

あつしつへき

あつしつへき

あつしつへき



千載集意

意の

あつしつへき

あつしつへき

あつしつへき

あつしつへき

あつしつへき

あつしつへき

あつしつへき

秋のそら

後九條内大臣

静のうらみ

足性法親王

あやかしらん

吾等意丹穂面今夕母可天漢原石枕

卷

建礼門院右京大夫

為理卿

袖まろ

後赤良直

の川原

若無院内

彦星頭刺玉之嬌意乱神良志此河

瀬

彦星頭刺玉之嬌意乱神良志此河

瀬

西の法師

あけ

かや

のき

わの

ち

の

き

の

き

の

き

の

き

の

き



寂蓮法師

あ

の

あ

の

あ

の

あ

の

あ

の

あ

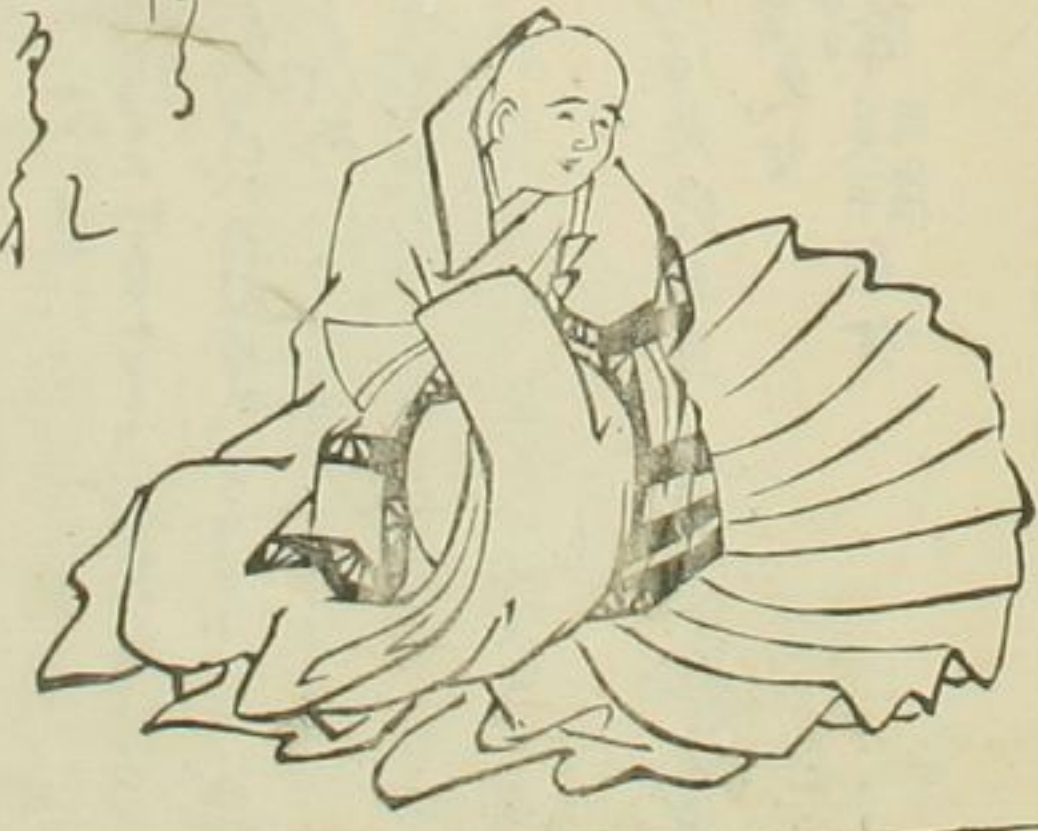
の

あ

の

あ

の



新古今集秋下

五平首

の

あ

の

あ

の

あ

の

あ

の

あ

の

あ

の

あ

の

あ

の

あ

の

あ

の

入道大政大臣  
 参議秀經  
 花  
 天法瀬 每幣奉情者君平幸座跡  
 月  
 遥堂等 牛枕易麻夜鶏音莫動明者  
 雅明  
 雅昭  
 清輔朝日

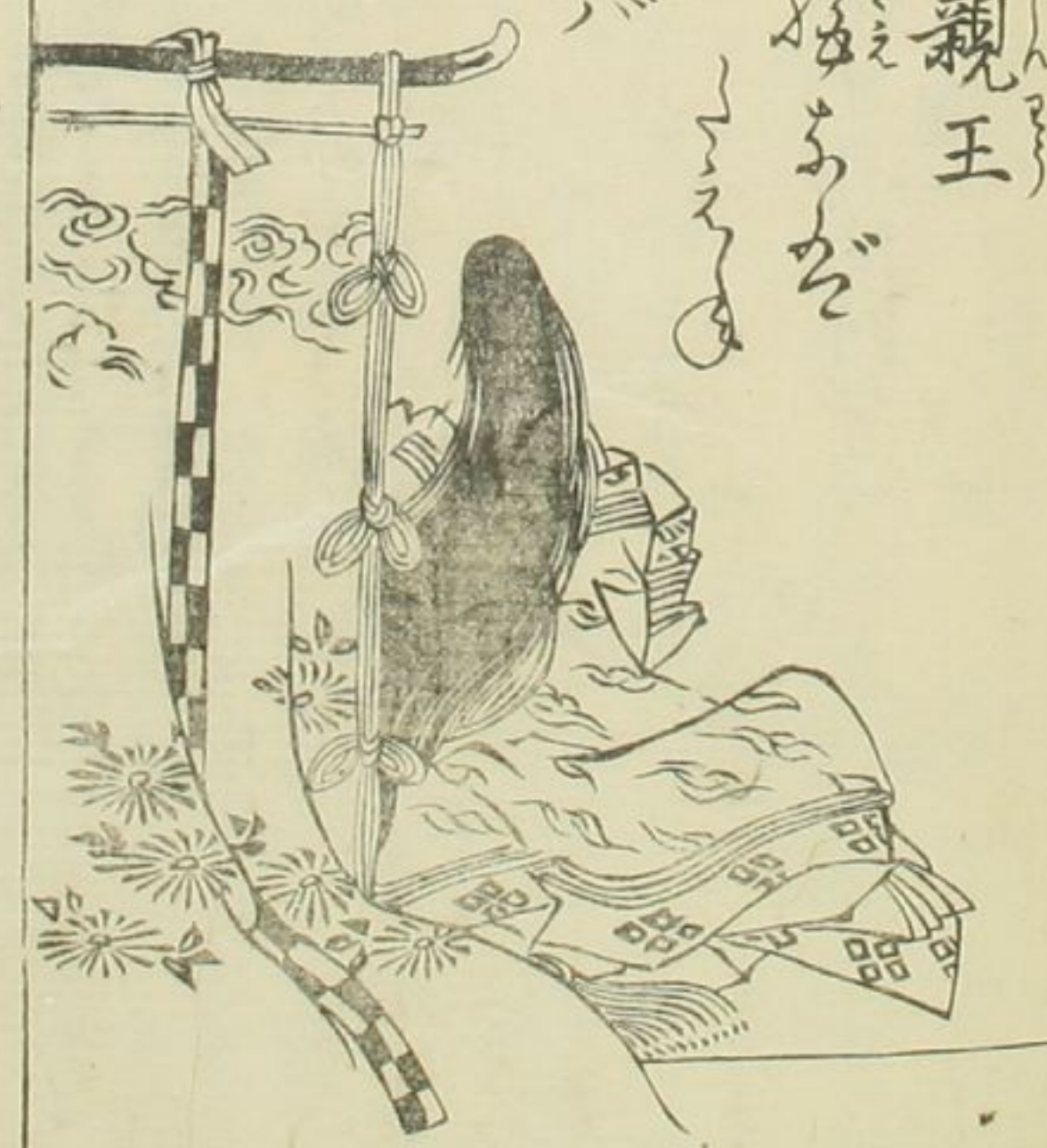
皇太后門院不肖  
 一花ゆき  
 皇太后門院不肖



千載集意 撰政右大臣の  
 二月院号法性寺殿 崇徳院后大治五年二月立后久安六年  
 別當大皇太后宮亮俊隆 現平親女

重陽宴 九月九日  
 公事根源云九月九日ハ辰日にて竹取翁  
 花の宴行ハ九月九日ハ辰日にて竹取翁  
 九月九日ハ辰日にて竹取翁  
 九月九日ハ辰日にて竹取翁

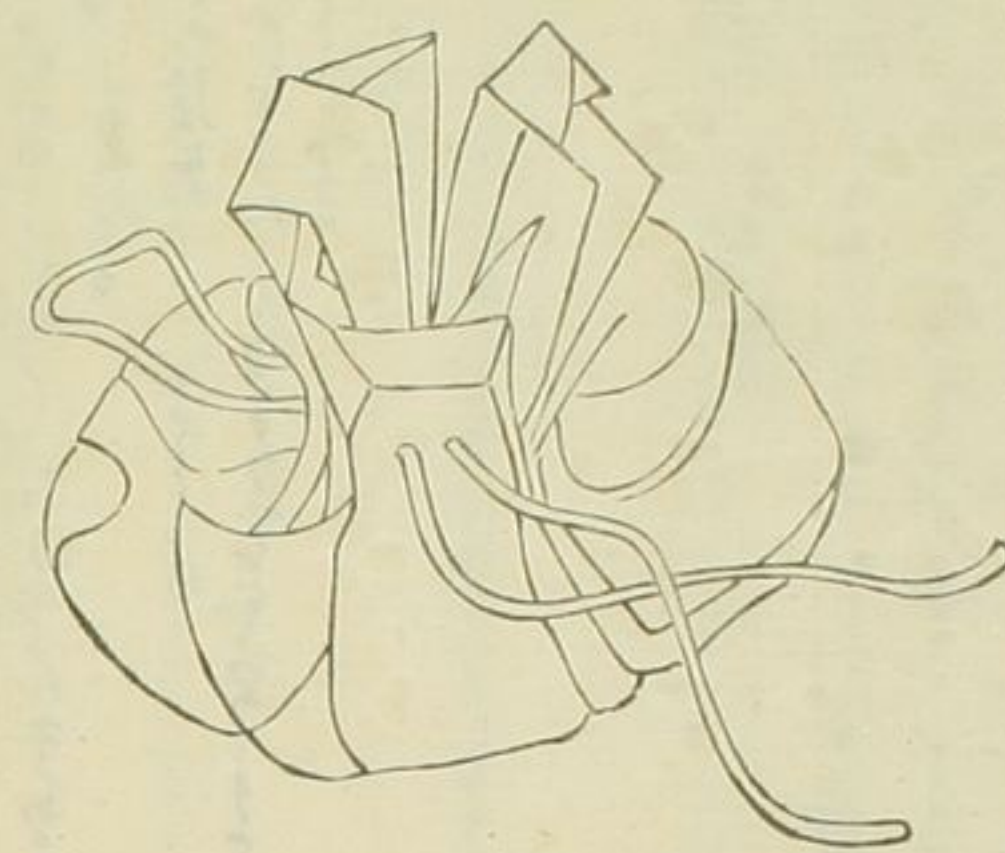
新古今集意 玉首花の  
 式子内親王  
 出歌家法名承如法



夕山に日下りてを人の心せしむる  
 夕の影つらきしを人の心せしむる  
 夕の影つらきしを人の心せしむる  
 夕の影つらきしを人の心せしむる

續齊階記云汝南桓景隨夢長房遊  
 學累年長房謂之日九月九日汝家當  
 有災厄宜去家人各作絳囊盛茱  
 萸以繫臂登高山飲酒此禍可消景  
 如其言舉家登高夕暈見雞犬牛羊一時  
 暴死長房聞之日代之矣今世人每至  
 九日登山飲酒帶茱萸囊是也

朱萸囊圖



弘仁掃部式云九月九日菊花宴神  
 泉苑殿上供御座及設參議以上座  
 又帳下侍後文人等座

式部式云九月九日菊花宴應古文  
 人者前二日省簡定文章生並諸司  
 官人堪屬文者並預令宜者當日  
 質明掃部寮儀座常轉以下諸座  
 計列文人即造名簿御老轉以名簿  
 奏進内侍備式

内裏式云九月九日菊花宴式  
 前一日所司設御座及參議以上并非  
 參議三位以上座於神泉苑乾臨閣  
 中庭東設五位以上帳西設文人帳南  
 太閣若干文式所構舞臺於南若干文  
 設女樂座其日平且中務置宣命位於尋  
 常位北一許文内藏寮立文臺於舞臺  
 西北上御座既而皇帝御乾臨閣  
 諸衛服上後服内侍臨東楹喚大臣皇  
 太子着座及大臣令喚群臣等  
 儀並如常群臣座定式部章文人參入帳  
 前列立北面東上謝座謝酒着座内

殷富門院大輔

そのあまれ  
 神はとも  
 ぬるもぞ  
 ぬるもぞ  
 ぬるもぞ



予載集意 於冷一侍りしを時らるの影  
 影のくらくらと格さふまう 影をささる影のあま  
 りも あまれもささる影のくらくらと格さふまう  
 了於 影のくらくらと格さふまう 影をささる影のあま  
 りも あまれもささる影のくらくらと格さふまう  
 於富門院後白河院皇女安徳後鳥羽二代准母源  
 德院養母 國大母 文治三年六月號殷富門院建保  
 四年四月崩  
 太輔祖父後白河院判官代 行憲公 後五位  
 上信成也 大系圖

後京極攝政前大臣


まづ  
 相  
 ぬるもぞ  
 ぬるもぞ  
 ぬるもぞ



新古今集秋下 不首おありを  
 影のくらくらと格さふまう 影をささる影のあま  
 りも あまれもささる影のくらくらと格さふまう  
 了於 影のくらくらと格さふまう 影をささる影のあま  
 りも あまれもささる影のくらくらと格さふまう  
 毛詩云七月在野八月在宇九月在戶十月蟋蟀  
 入我床下  
 父後法性寺殿 善實公 母後三位藤原秀行女也  
 後京極殿 良經公 元久元年十二月太政大臣同三年四  
 月辭太政大臣 庭永元年二月薨



藏察揚筆墨現紙先夏女樂預候於  
 東瀛殿孟一西行舟渡就閣前極奏  
 祭訖皇太子避座次閣上群臣下自東階  
 左近仗南二許文異位車行西面北上不  
 外閣者各當握前立並拜訖授宣命  
 之文於大臣若中納言以上外記進  
 見余侍後及文人夾名内侍傳取人  
 御覽訖大臣喚應宣判奏議以上一  
 人授宣命文復座上下群臣避座如  
 始宣命大夫下閣就位宣制曰天皇  
 我詔良殊宣下大命乎衆諸聞食止  
 宣群臣恭唯再拜訖曰今日者九月  
 九日菊花盃樂開食日在故是  
 以御酒食用惠良伎返止為志  
 常也賜酒幣乃大物賜以宣群臣  
 并舞賜祿有差共文人者後日定  
 更復賜祿或時不必為也  
 清心納枕草紙をせむはてしなくの  
 ことありぬひのよりけりてあはれ  
 けりてあはれけりてあはれけりてあ  
 はれけりてあはれけりてあはれけり  
 九月九日菊花盃の御事

二條院讚政  
 吾神を  


千載集意 寧石  
 二條院大御父後白河院大御母八皇太后  
 御仁保元三年十二月即位十六永萬元年七月崩御  
 讚岐八源三位頼政卿女  
 蘇子大納言 御講  
 御年三十三

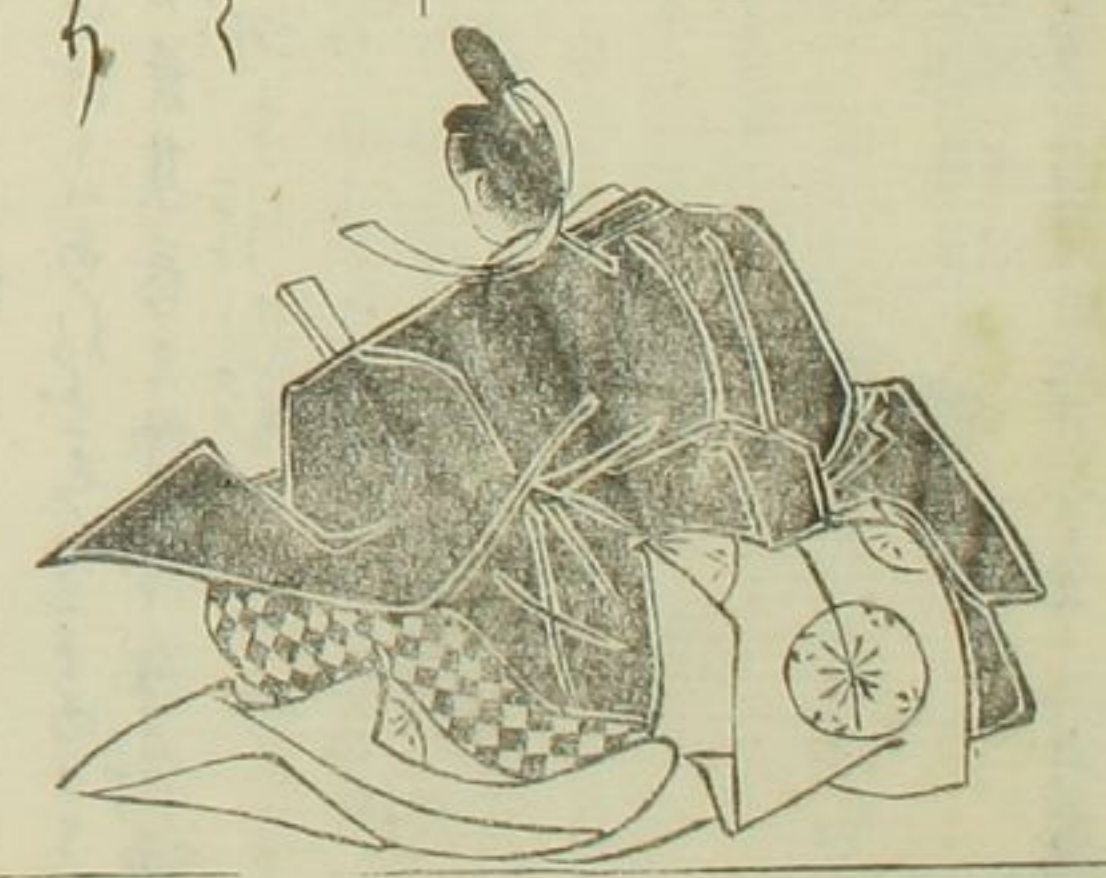
俊頼朝臣  
 保憲女  
 行家  
 九日菊花盃の御事  
 又中務集卷九月  
 九日菊花盃の御事  
 又中務集卷九月  
 九日菊花盃の御事

鎮人君右大臣  
 女の  


新勅撰集羈旅  
 鎮人君右大臣の御事  
 鎮人君右大臣の御事  
 鎮人君右大臣の御事  
 鎮人君右大臣の御事

兼輔  
高き  
為実  
赤乳母  
忠岑  
世徳院  
李經

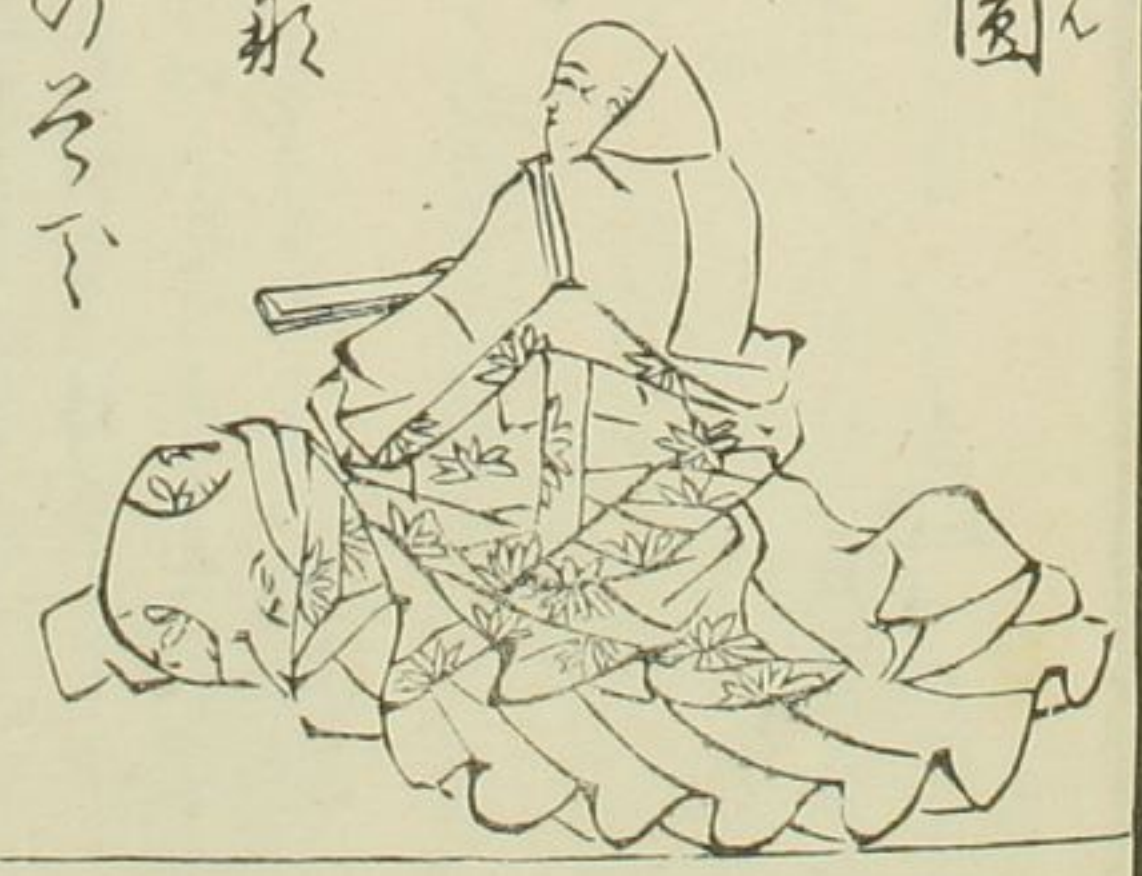
参議雅經  
みよりのゆけ  
秋のせ  
わさや  
なつたより



▲新古今集秋下 持衣のこころ  
雅經卿・兼久二年後三位同十二月参議同三年三月  
先

追離  
公事根源  
素鬼をどる  
門々入く  
山ま下

▲千載集雜中  
前大僧正意園  
おふけ  
吾  
松子  
わのそと



大舎人叩門圍司就版奏云、儀入等  
 幸、奏入上其官姓名等、謂親王以下  
 門故尔申、勅曰、高都理禮圍司傳宜云、  
 今姓名等、奏入中務省、待從内舍人  
 大舎人等、各持挑、葦矢、陰陽寮齋部  
 共數員、執祭具、方相一人、取大舎人長  
 所司式、執祭具、方相一人、大者為之、着  
 假面黃金四目玄衣朱裳、右執戈、左執  
 楯、依子廿人、取官奴、同著紺布衣、朱  
 額、共入殿、列立、陰陽師、齋部、奠  
 祭、陰陽師跪、讀咒文、今案立、託方相  
 先作、讎聲、即以戈、叩楯、如此、三遍、群  
 臣相承、和呼、以逐惡鬼、各四門、北門出  
 至宮城、門外、京職、接引、鼓擊、逐至、郭  
 外而止

延喜式大舎人式云、方相首、親王以下  
 隨次入、立、庭中、陰陽寮、讎、祭畢、親  
 王以下、執挑、葦矢、挑、杖、讎、宮城、四  
 門、東、陽明門、西、殿、富門  
 門、南、朱雀門、北、建智門

延喜式云、其方相、假面一頭、黃、  
 内裏式云、晦、夜、諸衛、係、時、尅、勤、所、部、也、  
 諸門、近、仗、陳、階、下、近、衛、將、曹、各、一、人、掌、  
 迎、衛、左、近、衛、五、人、開、津、明、門、先、共、北、面、立、  
 門、内、埋、下、共、置、了、登、階、開、之、將、曹、記、  
 引、還、圍、司、二、人、出、自、紫、宸、殿、西、方、居、門、  
 左、右、大、舎、人、未、叩、門、之、先、圍、子、各、一、挑、了、  
 葦、矢、木、工、寮、屏、自、南、階、校、内、侍、班、給、女

延喜式云、其方相、假面一頭、黃、  
 内裏式云、晦、夜、諸衛、係、時、尅、勤、所、部、也、  
 諸門、近、仗、陳、階、下、近、衛、將、曹、各、一、人、掌、  
 迎、衛、左、近、衛、五、人、開、津、明、門、先、共、北、面、立、  
 門、内、埋、下、共、置、了、登、階、開、之、將、曹、記、  
 引、還、圍、司、二、人、出、自、紫、宸、殿、西、方、居、門、  
 左、右、大、舎、人、未、叩、門、之、先、圍、子、各、一、挑、了、  
 葦、矢、木、工、寮、屏、自、南、階、校、内、侍、班、給、女

入道大政大臣



新勅撰集雜

花をよみ侍りて

あつらひの  
 花の香  
 かりけ  
 ものそ  
 けりて也り

新勅撰集雜 花をよみ侍りて  
 あつらひの  
 花の香  
 かりけ  
 ものそ  
 けりて也り

父坊城内大臣 實宗公 母前中納言基家卿女  
 入道殿公經公貞應元年八月任太政大臣 寬喜三年十  
 二月依病出家 六十 寬元二年八月薨 七十 西園寺太政  
 大臣 一

推中納言定家



新勅撰集意 建保ら子内表孫公孫  
 万葉六 藤原時 名才隔 船瀬後 所見 津路島松  
 帆乃 津乃 朝名 藝尔 王 藻 新 管 善 菜 才 二 藻 監 燒  
 仁治二年八月廿日薨 六十 京極中納言

新勅撰集意 建保ら子内表孫公孫  
 万葉六 藤原時 名才隔 船瀬後 所見 津路島松  
 帆乃 津乃 朝名 藝尔 王 藻 新 管 善 菜 才 二 藻 監 燒  
 仁治二年八月廿日薨 六十 京極中納言

若くは... 政事要畧廿五卷小のせり方相氏恨子等の圖



延喜式云恨子八人紺布衣八領云

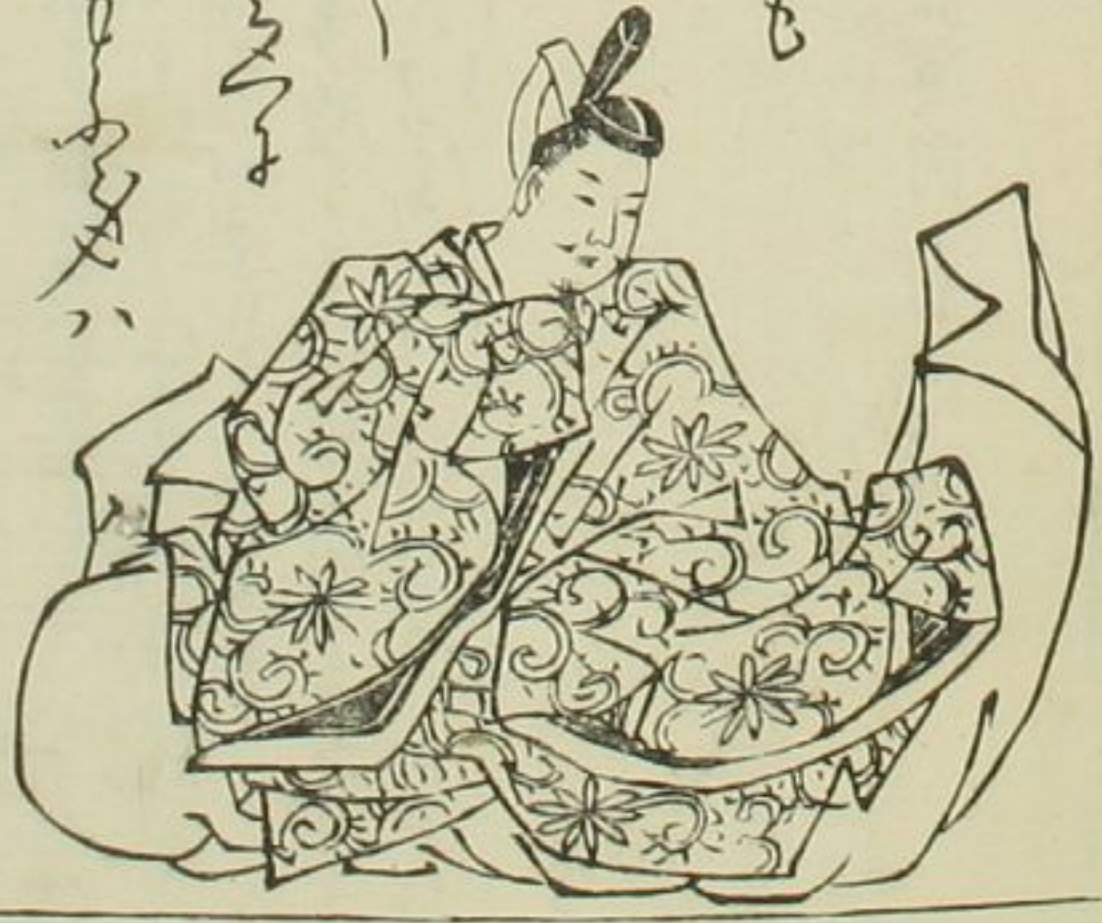
後二位家隆



新勅撰集芟 寛喜元年女御 光明寺權政道家女御

後鳥羽院 仁治三年七月奉号 後鳥羽院

後鳥羽院



續後撰集雜

大御文ハ高倉天皇大御母大左大臣信隆公女... 皇代記云承久三年七月八日於鳥羽殿御出家...

方相氏



あつゝのま 内大臣... 手申す教令...



